

一般社団法人二子玉川エリアマネジメント



二子玉川かわのまちアクション：
多摩川と野川河川敷における水辺環境の保全と安全利用の啓発活動(マルタウグイ産卵環境づくり、野川護岸整備、橋脚清掃、外来種調査)

助成区分 植樹 **環境保全** **調査・研究** **教育・啓蒙**

実施状況 開催回数:4回

参加者総数:約150人

活動の全体目標に対する達成度 **75%**

活動目的

「水辺における安全な利用」と「防災への備え」を啓発することを目的に実施。地域で活動する水辺環境の専門家や河川管理者などを招き、地元の小中学生や大学研究生などの参加を積極的に募集し、地域の産官学民が連携し、新たな水辺活用・活動のアイデアが生み、「多摩川流域文明」の発祥のきっかけとなること。

活動内容



成果

今年度のかわのまちアクションは「マルタウグイの産卵環境づくり」(3月)「水辺環境整備」(6月、11月)「国道246号橋脚とその周辺の清掃と利活用」(1月、5月、9月)「多摩川河川敷の外来植物調査(10月)」を予定していた。残念ながら、台風直撃による河川敷での活動が難しく、外来植物調査のみ実施ができていない状況であるが、河川管理者などとの協議を行って、今年度中に実施し、その結果を一般へ周知する。

今年度より開始したプロジェクトの一つ「橋脚清掃」については、関心も高く結果的に清掃活動のみを含めると3回実施することができた。世田谷区からの資材助成を受け、活用アイデア会議については地域の大学と研究室との連携によって開催。地域の環境保全活動を産官学民が連携して実施する体制が定着してきたといえる。

工夫した点

持続的な活動を見据えて、できるだけ幅広く多様な属性の人々に参加してもらえるように、同時に活動へのリピーターとなっただけのように、活動プログラムのテーマを専門に偏らず広く設定し、専門的すぎないわかりやすく実践的な解説などで小学生や親子連れで楽しく参加できる内容にすることを心掛けた。

活動の後には、地域の人々の知恵を結集し、新しいアイデアとアクションが起きるような「交流」の場を設けた。具体的にはアウトドアでの飲食を共にすることで、リラックスした雰囲気の中で清掃活動などを労った。

今後の課題

基本的に開催場所が河川敷であることから、天候リスクが常にあり、代替日の設定や中止判断基準や告知の仕方などが課題であり、参加者が増えれば増えるほど、運営側の迅速な対応も難しくなる。今後は、すべて自分たちで実施するのではなく、同じような活動を各所で行ってくれるようなグループや人々を増やす、あるいは育成し支援していくような仕組みづくりも必要である。